



立山黒部アルペンルート  
全線開業50周年記念

# 高橋敬市 写真展

# 雲上 立山・ 劔岳



雲海に望む真砂岳、別山、劔岳／雄山から

開催期間

2021年10月2日(土)～12月19日(日)

会場

立山カルデラ砂防博物館・エントランスホール、企画展示室

関連イベント

## ギャラリートーク「観天望気」

出演：高橋敬市、木地智美(気象キャスター)

日時：10月24日(日) 13:30～15:00

会場：立山カルデラ砂防博物館 映像ホール(定員50名 申込不要)

※感染症対策により、リモート開催となる場合があります。

及びオンライン(Zoomを利用 定員100名 要申込、先着順)

申込方法

【Zoomによるご参加】

下記宛先にE-mailをお送りください。

宛先：[event@tatecal.or.jp](mailto:event@tatecal.or.jp) 件名：1024

本文に①参加者氏名、②居住する都道府県を記入

申込期間：10月1日(金)～20日(水)

お申込頂いた方には10月22日までにZoomミーティングアドレス、ミーティングID、パスコードをお送りいたします。



富山県立山カルデラ砂防博物館  
Tateyama Caldera Sabo Museum



巻雲と立山、劔岳／鹿島槍ヶ岳から



劔岳と吊るし雲／劔御前小屋から

## 観天望気と私

中学三年生の時、理科で「気象通報」の授業があり、天気に興味を持つようになりました。

初めて父親から買ってもらったカメラで撮った写真が入道雲の写真でした。その夜、雷鳴とともに激しい夕立が我が家にも降ったのを覚えています。高校生になると地学クラブに入り、祖母からの資金援助で近所の大工さんに百葉箱を作ってもらい、自宅の庭の片隅に置いて気象観測をはじめました。将来は気象台に務めることを夢みていました。

社会人になって二年ほどサラリーマン生活を送りましたが、自分の性に合わないと感じ、自由に生きるフリーランスの道を選びました。

立山の山小屋に勤務していたある朝、劔岳に「UFO」のような面白い雲が現れ夢中で撮りました。

その後天気は急変。“そうか、あの雲が知らせてくれたんだな”と思いました。

山登りで大切なのが明日の天気。

自分の今いる場所の天気を予測すること、これからの天気がどう変わるのを知ること、それが自分の身を守ることにあります。

運命のいたずらか雲の写真撮るようになり、それが思いもよらず写真家の道が開けました。

きっと気象の神様は私に大空のうつくしさを雲の神秘、自然のときめきを撮りなさい！といったのでしょうか？

生涯、写真のテーマは雲にはじまり、雲で終わる「水の循環」。

## 高橋敬市 プロフィール

1950年 高知県生まれ

1971年 北アルプス劔御前小屋に勤務

1982年 雑誌「写楽」小学館に一雲を読むーで写真家としてデビュー

1989年 立山町芦峠寺に移り住み写真ギャラリー「natur」を開設

以来、北アルプス立山連峰の自然や風土を撮りつづけ、山岳雑誌、写真集、カレンダーなどに作品を発表。

現在、朝日新聞富山版に「劔岳遠近」を300回にわたり連載中！

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日・12月6日～10日

写真展観覧料：無料

常設展示観覧料：大人400円、大学生以下・70歳以上無料



富山県立山カルデラ砂防博物館

Tateyama Caldera Sabo Museum

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峠寺字ブナ坂 68

TEL (076) 481-1160 FAX (076) 482-9100

ホームページ <http://www.tatecal.or.jp/tatecal/index.html>



立山とろうご雲／雷鳥平から

